

# 入学者のことば

## 歯学部に入学者として

歯学科1年 上村 藍太郎



あの浪人時代、気付くと高校での日々を思い出していた。たしかに、大学での自分を想像したこともあった。しかし、空虚な想像に幾度となく嫌気がさしたことが。また、社会的意義の

感じられない自分をどんなに情けなく思ったことが。

今、あのときの記憶は消えつつある。そして楽しかった高校生活も、よき思い出となろうとしている。過去を過去として感じられるのは、今が充実していることの他ならぬ証左であろう。

思えばこの入学を果たすまでは、新潟のすべての町並みに新鮮な感動を覚えていた。しかし、今や私のふるさとがそれに取って代わった。久々に前橋駅に降り立つなり、見慣れたはずの風景を思わず眺めまわしていた。荷物を両手に家路を急ぎつつ、ふるさとを持つ喜びをかみしめるのであった。

大学生となった私は、毎日楽しく過ごしている。何よりも笑い合える友人、語り合える友人がいることがうれしい。これからも歯学部の面々を、同じ道を歩むよき友として大切にしていきたい。また長くお世話になる歯学部の先生方を、生涯の師と仰いでいきたい。

私たち新潟大学歯学部の1年生は、早期臨床実習を行うことになっている。この実習では、患者役として処置を受ける患者役実習や、初診の患者様を対象にした患者付き添い実習、そして治療見学実習を行う。患者役実習では、実際に処置を受けて、どのような処置が痛みを伴うかを知ることができた。また、治療見学実習では、口を開けら

れない患者様を目の当たりにして、口を開けられないという症状が現実存在することや、その症状が患者様の生活に深刻な影響を与えることを知ることができた。実習を通じたこのような体験により、今後の歯学に関する専門科目の学習は現実に即したものとなるだろう。2年次以降の専門科目の学習が、自身の歯科医師としての能力を決めることを思うとき、これを目前にして現場をみられることの意義は大きいと思う。

これからは、信頼される歯科医師をめざして、現実に甘んじることなく、謙虚に日々を送りたい。

## 新潟大学歯学部に入学者として

歯学科1年 平原 三貴子



長い受験生活を終え、やっと迎えた入学式からもう3ヶ月が過ぎようとしています。この3ヶ月間、本当にあつという間でした。新潟出身の私にとっては、全く知らない土地で新しい生活が始まるわけではなかったのですが、これから

の6年間、ちゃんとやっていけるのだろうか、間違った選択をしてしまっていないだろうかと不安に思うこともありましたが、しかし3ヶ月が過ぎ、大学生活にもようやく慣れてきた今、新潟大学に、そして歯学部に入学者できたことを心から嬉しく思います。

入学してすぐに始まった早期臨床実習で、初めて白衣を着て病院に出た時の緊張感とちょっと誇らしい気持ちは新鮮でした。しかし、白衣を着て病院にいれば、もう学生じゃない、医療スタッフとして見られるのだから行動に気をつけなければならないということに対して責任を感じました。慣れない実習に毎回緊張し、へとへとになり、そ

の上、午後からは苦手なコンピュータを使うスタディスキルズが待っているため、金曜日はなんだか憂鬱なものになっていました。しかし、患者付き添い実習の時、前の週に担当した患者様が顔を覚えていてくださって「また来たのよ。先週は助かったわ。」と声をかけてくださいました。未熟な私でさえ、患者様の力に少しでもなれたことが本当に嬉しかったです。専門的な知識を持たない私たちが病院の中を動き回れるのは、多くの病院関係者の方々のお力添えがあってこそだと思います。私たちに貴重な経験をさせてくださっていることに感謝します。

これからの6年間、楽しいことばかりではないでしょうが、自分で選んだ道を信じて進んでいきたいと思います。また、勉強だけじゃなく、色々なことに挑戦して人間的にもっと成長していきたいと思います。最後に、この道に進むことを応援し、支えてくれている母、姉たちに感謝します。

## 口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 小林 玲



口腔生命福祉学科に入学して三ヶ月が経ち、一学期が終わろうとしています。入学したての頃は勝手がわからず戸惑っていた大学生活にもようやく慣れ、部活、勉強、バイトにと充実した毎日を送っています。最近では、疲労感と戦う毎日です。部活はバスケット部に入部しています。小・中学校、高校と続けてきたこともあり、大学でも続けようと思っていました。今では、週2~3回の練習に加え、自主練をするなど、とても充実しています。勉強面では、7月末に迫ったテストに追われながらも、教養科目や早期臨床実習にと、これもまた大変充実しています。特に、早期臨床実習では、患者様に直接接したり、さまざまな治療を見学できたり、車椅子での実習があったりととても貴重な実習となりました。

私は、医療関係、福祉関係の両方に興味を持つ

ていてどちらの道に進もうかとても迷っていました。そんな時、この学科を見つけました。名前だけを見たときは、「なんだ、この学科？」と思いました。しかし、よく調べてみると、歯科衛生士、社会福祉士を養成するという学科で、こんな欲張りな私にぴったりだと思い、また、できて間もなく、しかも全国でも新潟大学が初というもあり、新しいことに挑戦してみようと思い、ここに入ろうと決心しました。

この学科は、できてまだ3年目。世間の認知度もまだまだ低く、学科名を言えば、「なにそれ？」と言われるばかりです。説明しても理解されないこともしばしば。でも、これからの社会において、重要な役割を果たす学科であるのは確かだと思う。だから、もっとこの学科を盛り上げていかなければならないと思います。

これから、2年、3年になるにつれ専門科目も多くなっていきます。その中で、多くの知識を吸収し、これからの社会の役に立てる人材になるために頑張っていきたいと思います。また、誰もが、この学科に入ってよかったと誇りを持てるような学科を築いていきたいです。

## 口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 山本 有加利



大学に入学してからあっという間に3ヶ月も過ぎてしまいました。合格する前のこの世の終わりを迎えたかのような顔はもうしていません。あまりにすんなりと気持ちが切り替わったので、あの苦しみは一体なんだっただとさえ思います。面接試験で緊張のあまり自分でも何を話しているのかよくわからずに、とにかく話を途切れさせまいと必死で喋り続けていた事が遠い昔のことのように感じられます。

入学当初は大学の勉強システムに苦労し、いろんな人に何度もしつこく質問を繰り返しては迷惑ばかりかけていました（今でもそうです）が徐々

に慣れつつあります。が、授業内容は格段に難しそうな専門用語の数が増えて、(あれは何? これは何?)「これくらいは高校でも習ってきたでしょ」(そんなの習った覚えはない。自分が忘れただけ?) 覚えなければいけないことがたくさんあって、その上次々レポートが課されるので悪戦苦闘しています。レポートもかなり未熟なもので他人の受け売りばかり書いています。自分のレポートが書けるようになるにはまだまだ勉強が足りません。

未熟といえば、早期臨床実習で付き添いをした患者様にアンケートで「付き添いの目的がわからない」と書かれてしまいました。こちらが気を使ってしたこと患者様は迷惑だと思っていたり、もっと話しかけてくれてもいいのにと感じています。意思疎通の難しさを改めて痛感しました。その人が口や態度に出さなくてもその感情をしっかり読み取ることができるようになるために一つ一つのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

自分がどういう人間になってどんなことがしたいのか、まだはつきりとしていませんがこれから4年間一生懸命勉強に励んでその答えを出したいと思います。

## 大学院に入学して

顎顔面口腔外科学 池野 良



早い、本当に早い。時間が経過するのが早い。新潟大学大学院に入学してからの、この4ヶ月を一言で表すと『早い』しか思い浮かびません。

他大学出身の私は、初めは諸先生方の名前を覚えることから始めました。また、学校の雰囲気、新潟の環境に慣れる事で精一杯でフラストレーションの溜まる毎日でした。しかし、時間が経つにつれて環境に少しずつ慣れてきました。環境に慣れる事により、序々に仕事・勉強にも目を向けられるようになりました。

このころから仕事が増えてきて一日が短い、時間が経過するのが早いと感じてきました。時間が経つのが早く感じるということは、日々充実していることだと私は思います。家に帰った時に感じる疲労感に対応した充実感を毎日感じています。

顎顔面口腔外科の大学院1年次は、口腔外科外来、病棟、歯科麻酔科を4ヶ月ずつ回ります。私は、現在歯科麻酔科をローテーション中です。歯科麻酔科では、患者様個人の全身病態や、全身麻酔、鎮静法について丁寧に御指導して頂いております。普段なかなか勉強しにくい、手が伸びない分野だと感じておりましたが、今回勉強できるチャンスと環境を与えて頂き感謝しています。また、このチャンスを自分のために生かせるようこれからも精進していこうと思います。

私の大学院の研究は始まっていません。ぼんやりとしか、どのような研究を行いたいかは見えていません。しかし大学院で、毎日学ぶ事が研究の道しるべとなると思っております。そして、研究を成し遂げたとき大きな自信が付くと信じています。まだまだ、足りない所ばかりで御迷惑をおかけすると思いますが、なにとぞ宜しく御願います。

## 大学院に入学して

加齢歯科補綴学 目黒 真依子



今から2年程前に、日本大学を卒業後、新潟大学の研修医になるべく、実家のある新潟に帰って来ました。それから2年間、毎日診療室で不足気味の脳味噌フル回転で臨床経験を積ん

できました。ちょうど2年目の秋、同期の研修医も研修医終了後の進路を考えていた頃、新潟大学が主幹の補綴学会のお手伝いをしました。多くの大学院生の堂々たる研究発表や、ポスターの数々を拝見して、何か自分も1つのことを掘り下げて研究してみたいと思いました。2年間臨床をやってきたことも考え、臨床研究が何かできないかと。

そんなことを思いついてしまい、大学院進学を決意してから、早くも半年以上経ってしまいました。

現在は、まだ研修医から大学院生に移行中といった感じですが、研修医時代には知らなかった大学の新たな一面に触れ、心機一転といった感じではありません。研究テーマも決まり、すぐにでも研究できる状態なのですが、なかなか現実は厳しいです。まず文献の探し方が解らない。探し方が解ったら今度は当たり前ですが、全部英語。今までに経験したことのないことばかりで、途方もない迷路に迷い込んだ気分です。また、教授の講義のお手伝いもさせて頂き、大学生の時は、できるだけ扉の近くに座り、睡眠学習だった私が最前列で聴いてい

るなんて、母校の先生方が知ったら、さぞやおどろくことでしょう。でも、今また講義を聞いてみると、臨床での経験と結びつき、より理解が深まる気がします。

両親は、またまた学生に逆戻りという事態に、半ば呆れていますが、今まで勉強とは縁遠かった分、4年間みっちり勉強するのも悪くないかなと思う今日この頃です。

長い歯科医師人生の中で最初の数年がその後を決めるとよく言われます。同じ歯科医師でも、同期の仲間と様々な道を選び、その答えが出るのは、もつとずっと先ですが、この選択がきっと良い答えに繋がると信じています。

